みずかん通信　令和３年　晩秋　発行

朝夕はめっきり冷え込み、秋をすっ飛ばして冬が訪れたような気がしますが皆様いかがお過ごしでしょうか？ワクチン接種が進んでいるものの、ウイルス性感染症が流行しやすい時期でもありますので、今後も気を緩めずに対策に努めてください。

さて、上の写真は１０月下旬に水環境館前に現れたスナメリというイルカの仲間を撮影したものです。息継ぎのために水面へ出てくる一瞬を捉えたものですが、紫川で撮影されたスナメリはかなり珍しいのではないでしょうか。（うまく撮れてませんが…。）

スナメリは東日本以西の浅い内湾に広く生息し、特に瀬戸内海は日本最大のスナメリ生息地として知られ、北部九州・山口の漁業者からはゼゴンやデゴンドウ（巨頭＝頭が大きいという意味）という名で呼ばれています。沿岸性が強いため河口付近に出現したり、また稀ではありますが、餌を追って河川区域内にも現れることがあります。こうして普段見られない鯨類が浅場や河口に現れると、「体調を崩して迷い込んできたのでは？」と思われるかもしれませんが、スナメリは沿岸性種のため心配はないかと思われます。（実際、ボラを追いかけているような動きが見られました。）しかし、２０１９年に板櫃川に現れたコビレゴンドウは、本来沖合に生息するため、何らかの不調で河口に現れ、力尽きたのではないかと思われます。ちなみに、捕鯨文化が根付く日本で、なぜ沿岸性で捕獲しやすそうなスナメリが捕鯨対象にならなかったかというと、どうやら身に脂が多く、あまり食用に向かない種だからだそうです。

紫川では珍しいスナメリですが、海ではごく普通に見られます。筆者が住んでいる門司区内の港でも、釣りをしていると７割くらいの確率で見られ、一度に５頭前後の群れが港内に入ってきたり、カヌーを漕いでいると突然すぐそばに浮上して驚かされることもあります。口に含んだ海水を砂に吹き付けて舞い上がった底生生物を食べる習性から水族館では「バブルリング」ができるイルカとしても知られます。また、北九州港のシンボルキャラクター「スナＱ」のモチーフもスナメリで、多くの方に愛される存在となっています。

しかし、水族館などでの人気と裏腹に意外と身近な場所に住んでいるということを知らない方も多いのではないでしょうか？イルカショーで人気のハンドウイルカやカマイルカのような派手な動きはしませんが、正真正銘、れっきとしたイルカが実は北九州の海にも住んでいます。そして、もしかすると普段何気なく歩いている川や海辺の道からも見られる事があるのです。そんなふとした意外な出会いがあるからこそ、自然は楽しいのです。

～飼育員の戯言～「自慢させてください」

秋の深まりを感じはじめた１０月のある日、網を持って干潟をブラブラしていると、水深わずか１０㎝足らずの浅い場所で何かがバシャっと音を立てて動きました。音からして結構な大物の予感がしましたが、浅いとはいえ泥の堆積した干潟ですから、濁ってよく見えません。しばらく濁りが取れるのを待って目を凝らすと、何か大きな影が水底に横たわっています。「何だ？」と近づいてみると、それはマゴチという魚でした！デカイ！見たことないサイズ！ということで、たも網で捕獲チャレンジ。何度か逃げられつつも頭から網へ追い込み、何とか捕獲することができました。

捕まえたマゴチは、家で捌くには大きすぎるので、私の前の職場の一室を借りて捌くことにしました。その前にサイズを測ってみると、７０㎝の大物！一般的な図鑑には「体長６０㎝程度」と載ることが多い魚ですから、かなりの大物！船釣りならまだ可能性はあるけど、たも網で獲ったのはすごくない？と自慢しつつ捌きました。マゴチは刺身、皮の湯引き、唐揚げ、兜焼き、あら汁にしてスタッフ６人で美味しくいただきました。

70 ㎝のマゴチ。半身だけで刺身６人前とれました。

海と川の水が混ざりあう河口干潟は、年間を通して様々な魚を見られます。特に秋は春生まれの魚が大きく成長していたり、海と川を行き来する魚が観察できます。また、時々こうして普段は会えない生き物と遭遇することがあるのも採集の楽しみです。皆さんもぜひ網を持って出かけてみてください。

イベントのご案内

水環境館向かいの親水広場で「ゆうぐれコンサート」を開催します。当日はキッチンカーもやってきます。観覧無料、申込不要のイベントです。お気軽にご参加ください。　※写真はイメージです

みずべのゆうぐれコンサート

定員：なし　※座席には限り有り

内容：フルート・アコースティックギターの演奏

会場：紫川親水広場
（専用駐車場はございません）

詳しくは HP 等をご覧ください

令和３年度カヌー体験無事終了しました

１１月７日を持ちまして今年度のカヌー体験はすべて終了となりました。来年度は ４ 月以降に予定しております。初心者の方大歓迎！皆様のご参加をお待ちしております

スナメリを探してみよう！

スナメリは漢字で「砂滑」と書くように、底が砂地の浅い海に生息する小さなクジラの仲間です。日本海側よりも瀬戸内海側の方が遭遇確率は高いですが、穏やかな湾内であれば福岡沿岸で見られる事があります。また、本当は暖かい時期が(人にとっても)観察しやすいですが、個体数の多い北部九州や下関の港では年間を通して見ることができます。

上の写真は門司区のとある港で撮影したスナメリの息継ぎの様子です。スナメリは背びれを持たないため、息継ぎで見られるのは、鼻の穴が開いている頭の部分だけです。できるだけ高い視点から見降ろすように探す方が見つけやすいです。

ちなみに「イルカ」とは、小型のハクジラ(歯鯨)の一般的には 4m 以下の呼ぶことが多いですが、基準もなく曖昧なため、「イルカ」と呼ぼうと呼ぼうがどちらもありません。

種をイルカと特に決まったスナメリをが「クジラ」間違いでは

また、運が良ければ餌を追う姿が見られる事もあり、上の写真ではボラを追いかけています。スナメリはあまり群れを作りませんが、餌を追う時は５頭前後で泳ぐ姿に出会えるかもしれません。

かいくんの　おさかなトーク　～ツバクロエイ編～

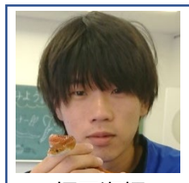
一般的なエイと比べると体が横に長く、ツバクロ（ツバメの古称）のようであることから名づけられました。福岡をはじめ日本沿岸に多く生息し、港や浅瀬で観察できることもあります。

海や河口で魚を探しているとよく出会うエイにナルトビエイがいます。本来は暖かい海域を好みますが、ここ１５年ほどは温暖化に伴って西日本全域で見られるようになりました。しかし今年はナルトビエイよりもツバクロエイの遭遇率が高かったように思います。おそらく私がツバクロエイの好むような場所に出向くことが多かったからでしょうが、いずれにせよ好きな魚なので会うたびにドキドキさせられます。

数年前、とある砂浜で腰まで海につかり、投網を打っていると、足元からツバクロエイが浮き上がってきたことがありました。その時ばかりは、とっさのことに思わず漏らしそうになりましたが、浅瀬でも大きな魚と出会えることがあるのが、豊かなフィールドの楽しさでもあります。

沿岸の底引き網ますが、食用にさ少なく、魚屋に並もあまりないため、会いに行かないとことができない魚でもあります。生き物の動きが鈍くなる季節になりますが、みなさんもぜひ、ツバクロエイに会いに出かけてみませんか？

漁でも捕獲されれることは ぶこと 見る



福田海輝
（かいくん）

日本産魚類と全国の市民会館が好き。川に関する仕事ですが海の方がテンション爆上げです。

水環境館
RIVER MUSEUM

住 所 / 北九州市小倉北区船場町 1-2
開館時間 / 10:00～19:00 休館日 / 原則火曜日(長期休暇期間中除く)・年末年始
お問い合わせ / 093-551-3011
指定管理者 / 玄海グリーン＆アドベンチャー共同企業体

http://mizukankyokan.jp